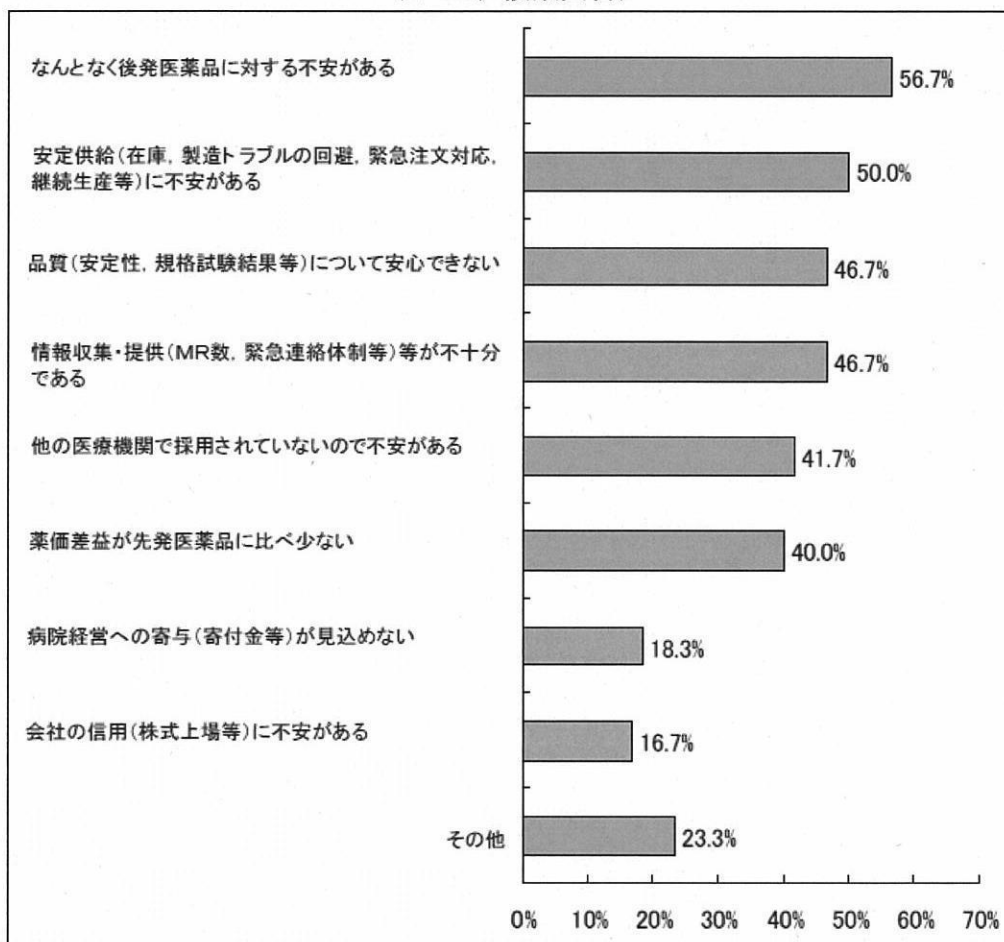


公正取引委員会の「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成18年）」によると、後発医薬品メーカーが医療機関から後発医薬品の取引の申出を断られる場合の理由をたずねている。それをみると、「なんとなく後発医薬品に対する不安がある」（56.7%）が最も多く、次いで、「安定供給（在庫、製造トラブルの回避、緊急注文対応、継続生産等）に不安がある」（50.0%）、「品質（安定性、規格試験結果等）について安心できない」（46.7%）、「情報収集・提供（MR数、緊急連絡体制等）等が不十分である」（46.7%）となっている。

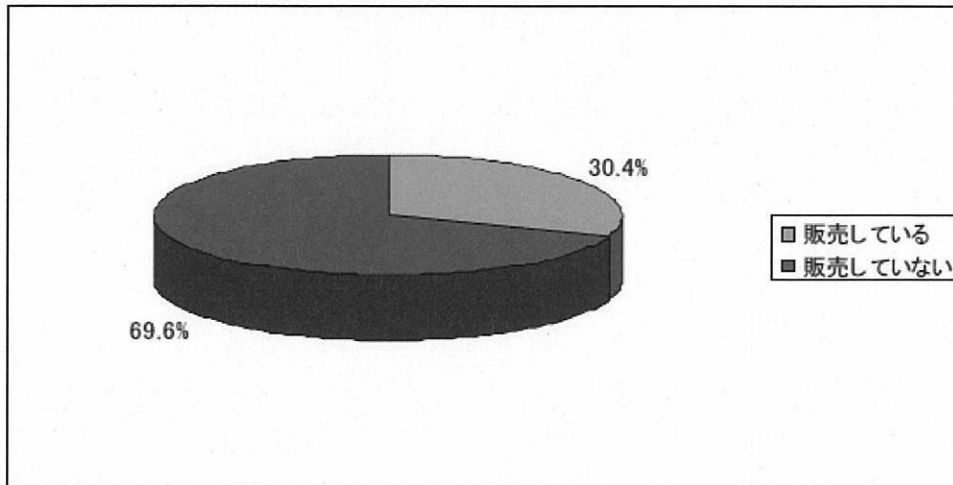
図表 51 医療機関から後発医薬品の取引の申出を断られる場合の理由
(n=60、複数回答)



出所：公正取引委員会「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成18年）」

同報告書では、卸売業者に対して、医療機関に対する後発医薬品の販売の実態について調査を行っている。そこで、卸売業者に対するアンケート調査において、後発医薬品を積極的に販売しているかを尋ねたところ、「(積極的に)販売している」との回答は約3割にとどまっており、約7割が「(積極的に)販売していない」と回答している結果となっている。

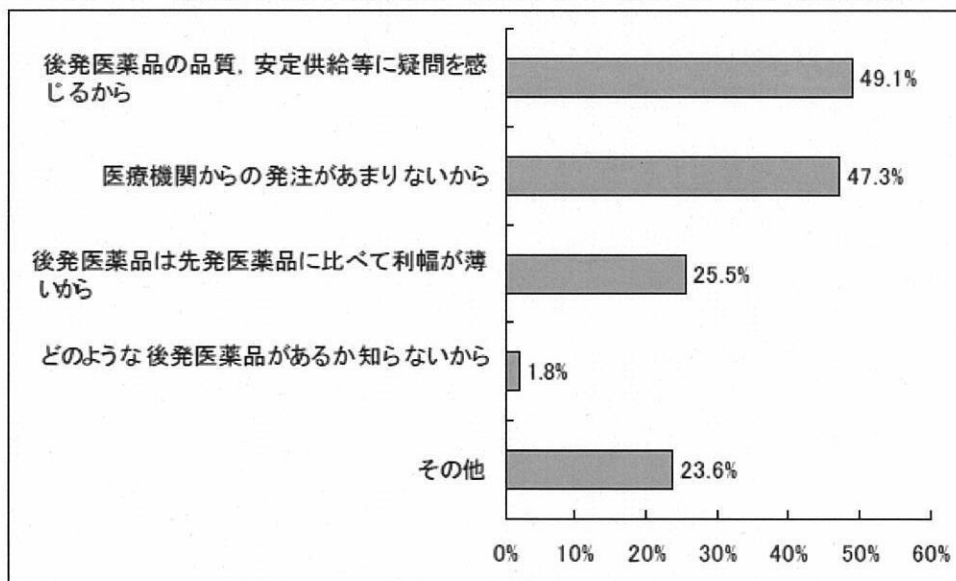
図表 52 後発医薬品の積極的な販売 (n=79)



出所：公正取引委員会「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成18年）」

積極的に販売していない卸売業者の理由についてみると、「後発医薬品の品質、安定供給等に疑問を感じるから」（49.1%）が最も多く、次いで「医療機関からの発注があまりないから」（47.3%）の順となっている。

図表 53 後発医薬品を積極的に販売しない理由 (n=55、複数回答)



出所：公正取引委員会「医療用医薬品の流通実態に関する調査報告書（平成18年）」

II. 一般国民向けアンケート調査結果

1. アンケート実施概要

- ・対象

インターネットアンケート会社登録モニター

- ・調査予定数

5,000 サンプル

- ・サンプリング方法

地域別・性別・年齢階級別にサンプル数を設定した。

詳細は下表の通り

	北海道・東北		関東		北陸・中部		近畿		中国・四国		九州		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
20代	49	47	141	128	58	55	61	63	31	31	41	42	747
30代	54	55	170	157	73	69	73	76	36	37	44	46	890
40代	54	55	134	125	61	59	59	61	33	34	43	46	764
50代	67	68	152	150	72	73	72	76	44	45	53	55	927
60代以上	108	145	232	278	118	148	119	150	74	100	83	117	1,672
合計	332	370	829	838	382	404	384	426	218	247	264	306	5,000

- ・調査時期

平成 21 年 3 月 25 日～平成 21 年 3 月 27 日

- ・調査実施方法

アンケート用 WEB ページを作成し、WEB ページ上で回答

- ・回収数

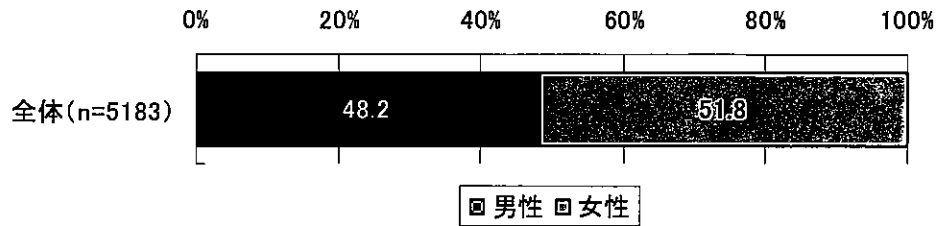
5,183 サンプル

2. 回答者属性

(1) 性別

回答者の性別をみると、「男性」が48.2%、「女性」が51.8%となった。

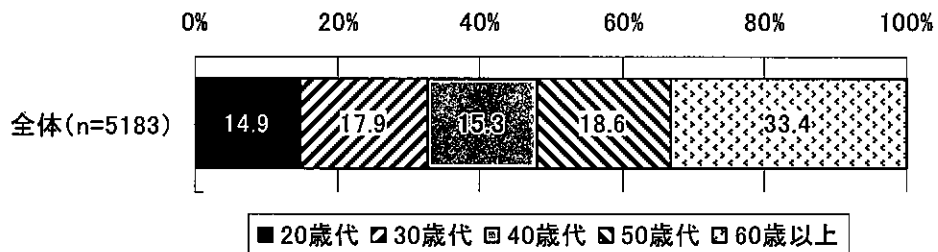
図表 2-1 性別



(2) 年齢

回答者の年齢をみると、「60歳以上」が約3割を占める結果となった。

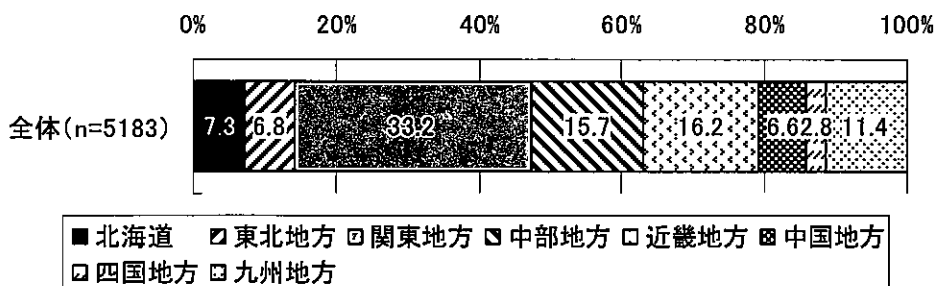
図表 2-2 年齢



(3) 居住地

回答者の居住地をみると「関東地方」が約3割となった。

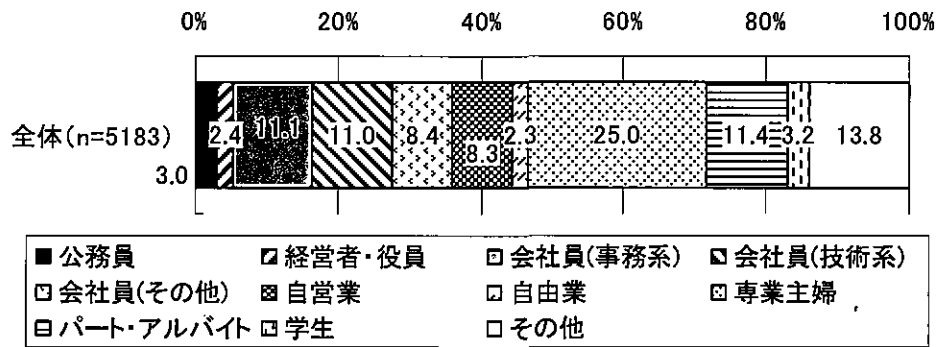
図表 2-3 居住地



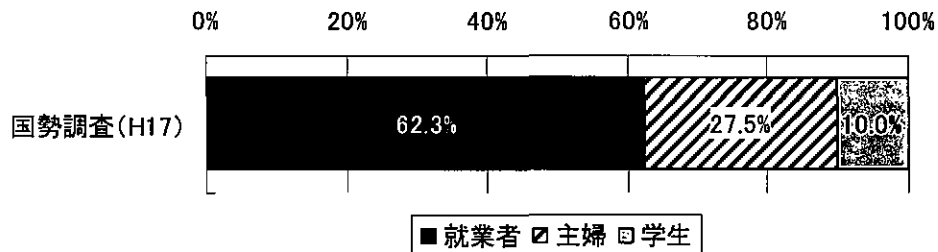
(4) 職業

回答者の職業をみると、「専業主婦」(25.0%)が最も多く、次いで「パート・アルバイト」(11.4%)、「会社員(事務系)」(11.1%)、「会社員(技術系)」(11.0%)の順となった。

図表 2-4 職業

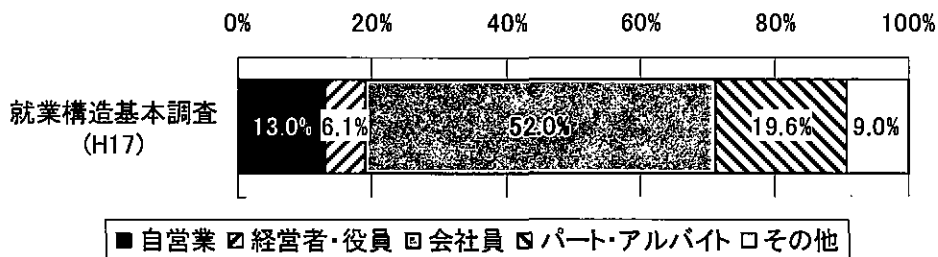


図表 2-5 (参考) 国勢調査(平成17年度)



注) 20歳以上で集計

図表 2-6 (参考) 就業構造基本調査(平成17年度)

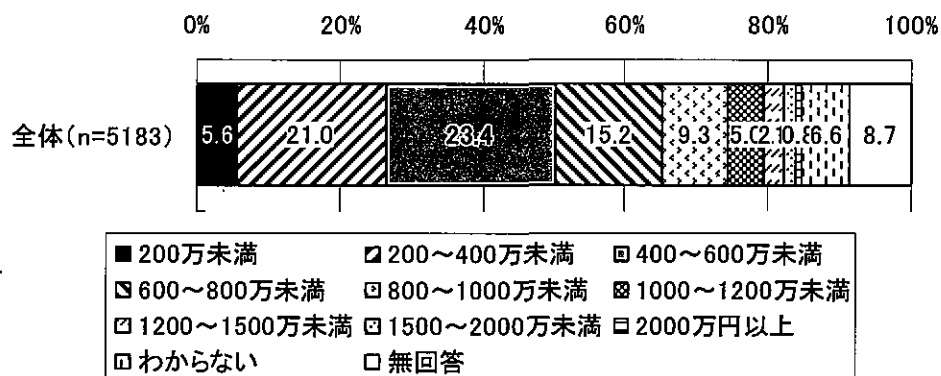


(5) 世帯年収

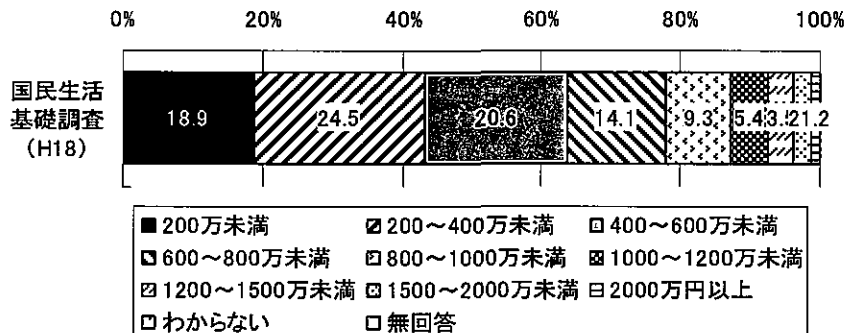
回答者の世帯年収をみると、「400～600万未満」が23.4%と最も多く、次いで「200～400万未満」(21.0%)、「600～800万未満」(15.2%)の順となった。

国民生活基礎調査(平成18年)と比較すると、今回の回答者の世帯年収は高くなっている。

図表 2-7 世帯年収



図表 2-8 (参考) 国民生活基礎調査(平成18年)

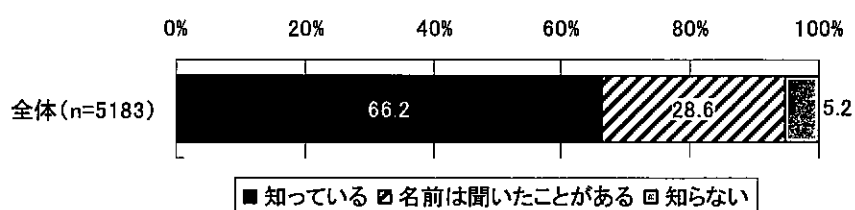


3. アンケート結果

(1) ジェネリック医薬品の認知度

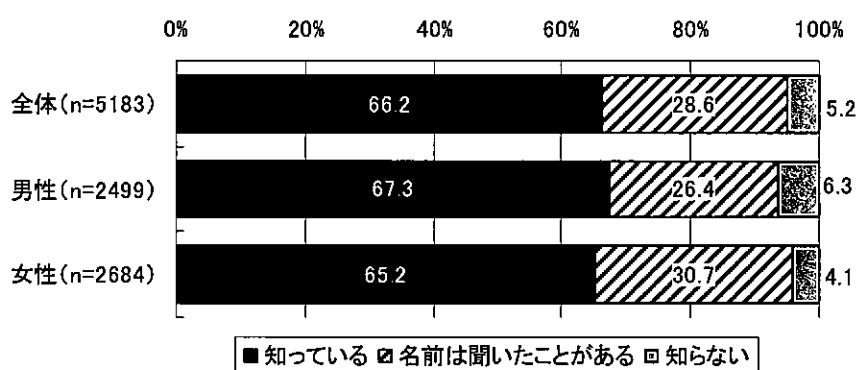
ジェネリック医薬品の認知度についてみると、「知っている」との回答が66.2%、「名前は聞いたことがある」が28.6%、「知らない」が5.2%となった。

図表 3-1 後発医薬品の認知度

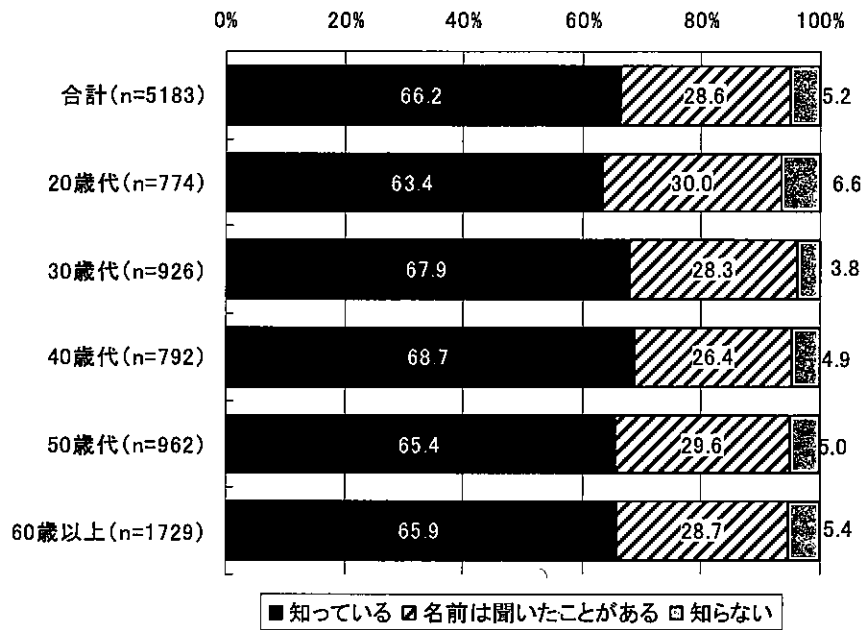


性別、年齢別でも大きな差はない結果となった。

図表 3-2 後発医薬品の認知度 (性別)



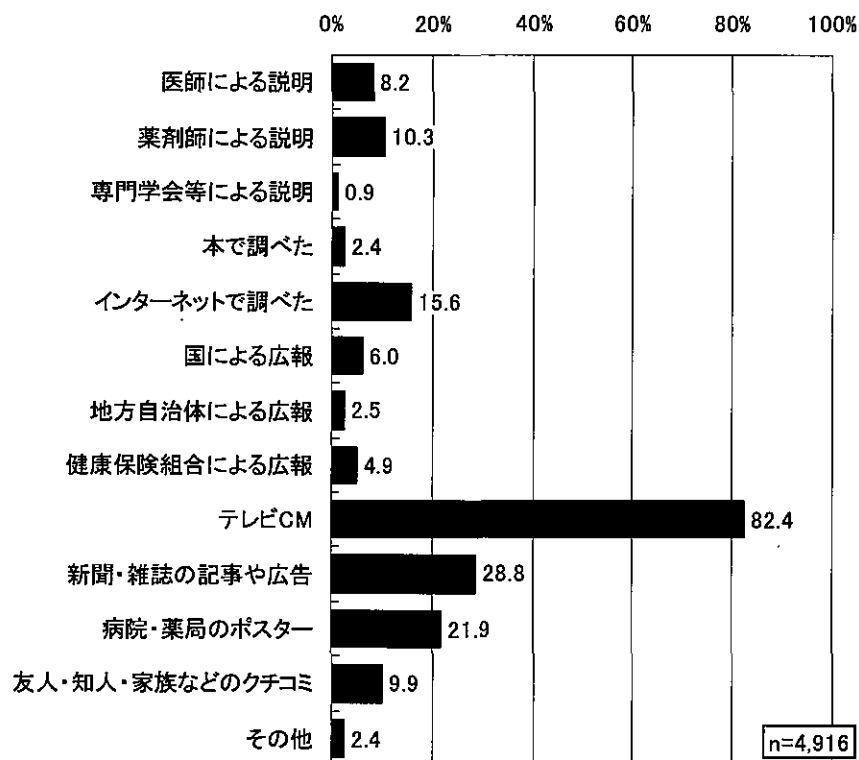
図表 3-3 後発医薬品の認知度（年齢別）



(2) 後発医薬品を知ったきっかけ

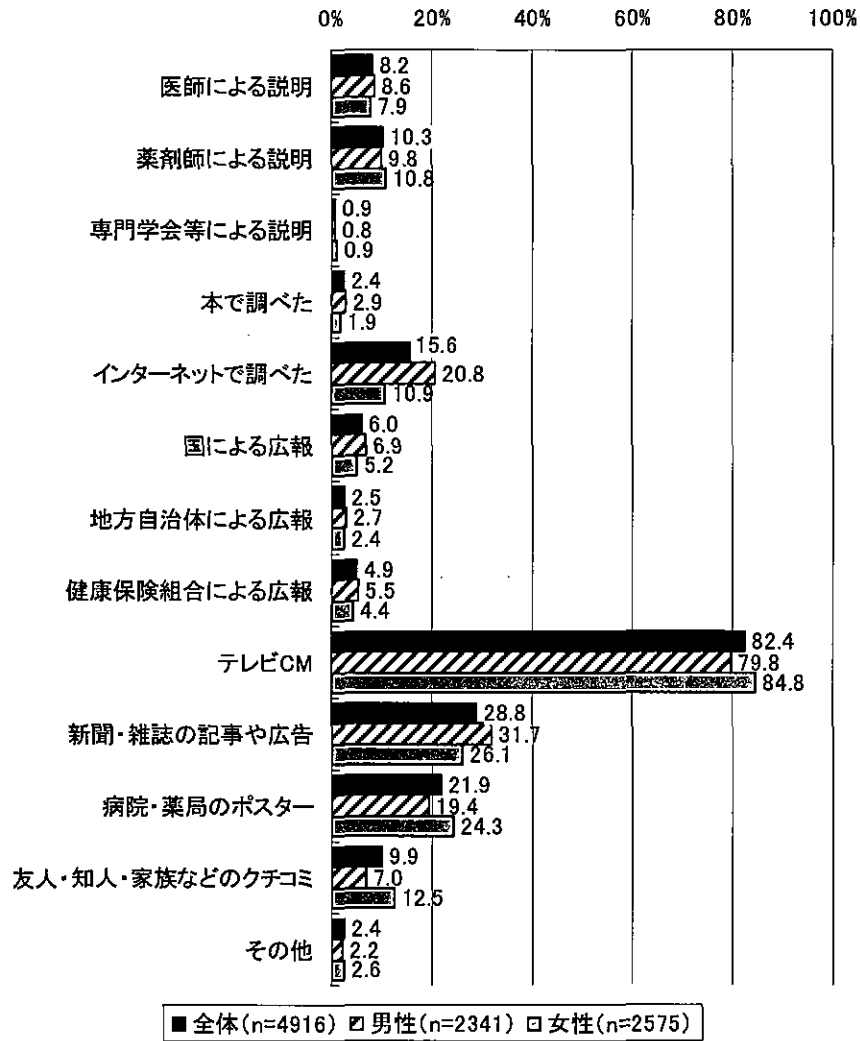
ジェネリック医薬品を「知っている」「名前は聞いたことがある」と回答した人に対して、知るきっかけを尋ねたところ、「テレビCM」が82.4%と最も多くなった。

図表 3-4 後発医薬品を知ったきっかけ（複数回答）



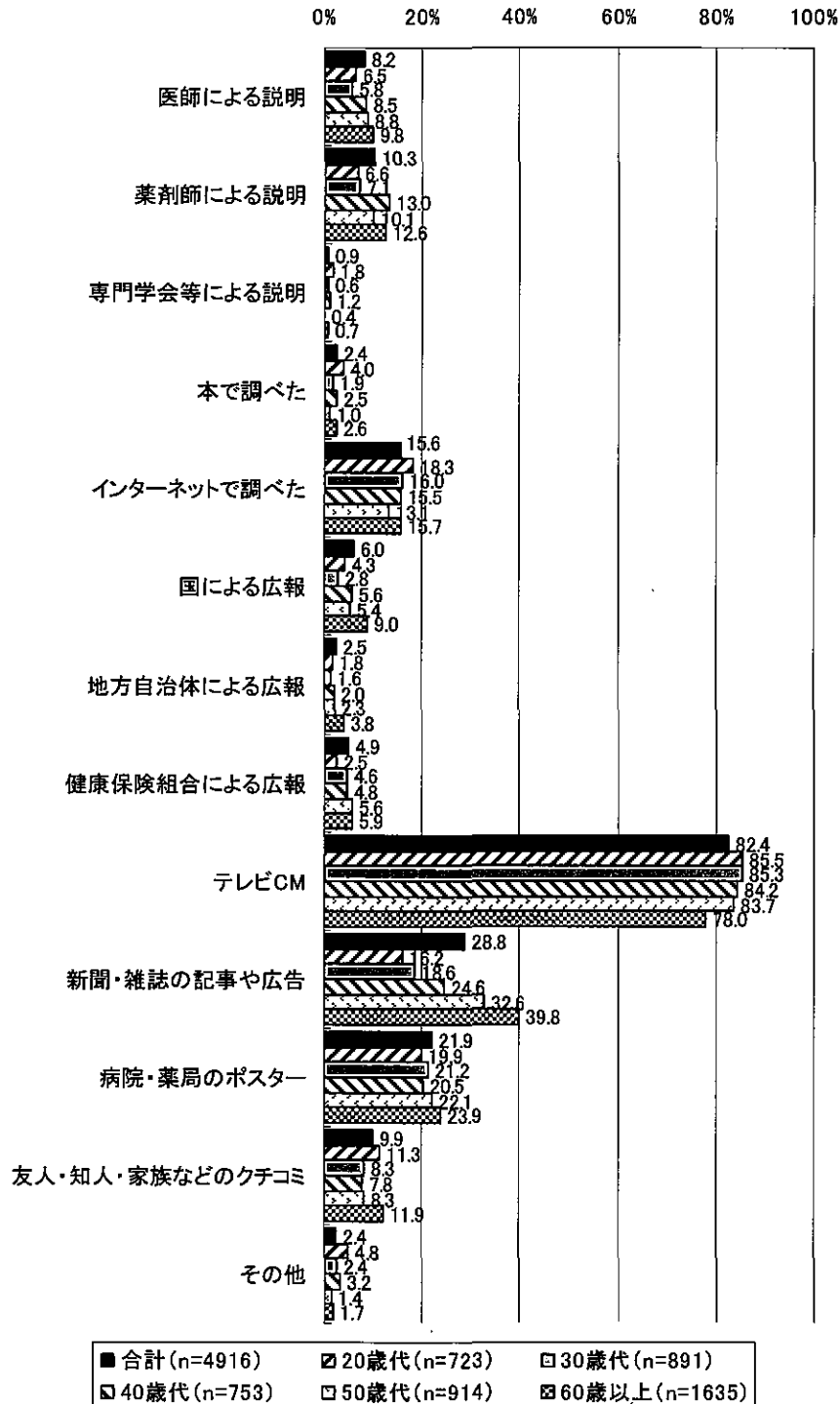
性別で見ると、女性に比べ男性で「インターネットで調べた」と回答した割合が高い結果となった。

図表 3-5 後発医薬品を知ったきっかけ（性別）



年齢別にみると、「テレビCM」は年齢が上がるにつれ回答割合が低くなり、「新聞・雑誌の記事や広告」は年齢が上がるにつれ回答割合が高くなっている。

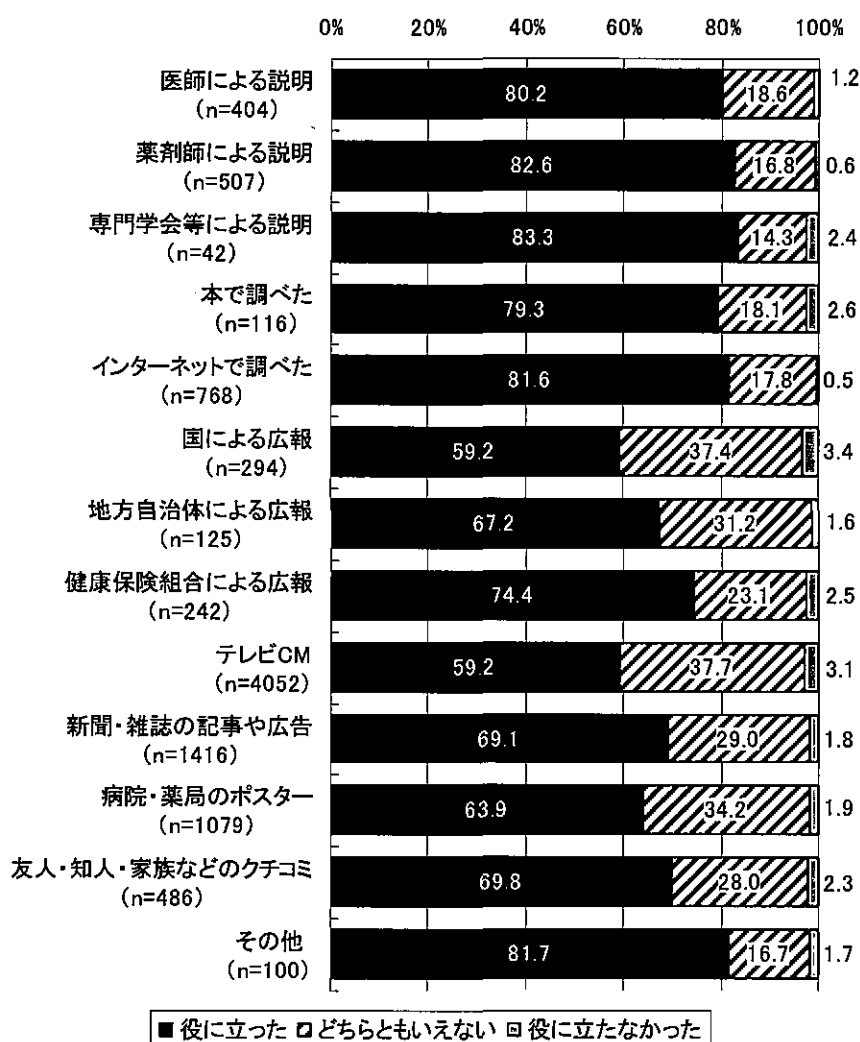
図表 3-6 後発医薬品を知ったきっかけ（年齢別、複数回答）



(3) 情報の有効度

ジェネリック医薬品を「知っている」「名前は聞いたことがある」と回答した人に対して、ジェネリック医薬品を知るきっかけとなったものが自身にとって有効なものであったかについて尋ねたところ、いずれの情報源も約6割以上が「役に立った」との回答であった。特に、「医師による説明」「薬剤師による説明」「専門学会等による説明」、「インターネットで調べた」では「役に立った」との回答が8割以上という結果となった。

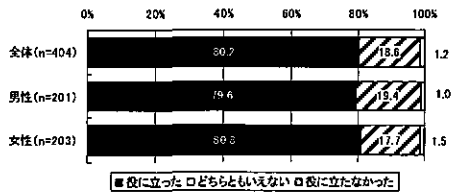
図表 3-7 情報の有効度



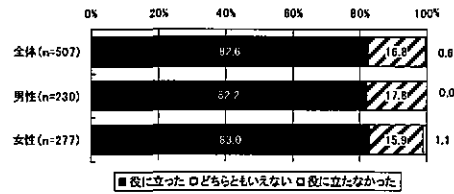
性別で見ると、男性に比べ女性の方が、「国による広報」、「友人・知人・家族などのクチコミ」と回答している割合が高い結果となった。

図表 3-8 情報の有効度 (性別)

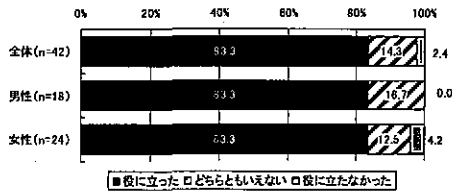
【医師による説明】



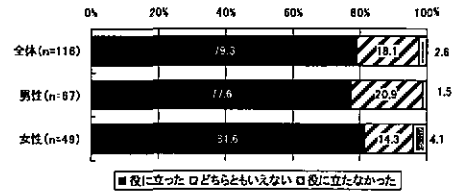
【薬剤師による説明】



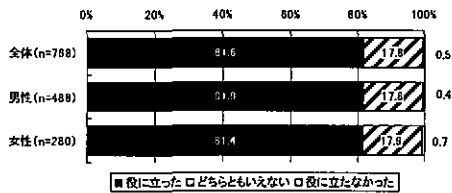
【専門学会等による説明】



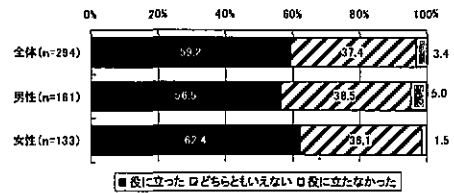
【本で調べた】



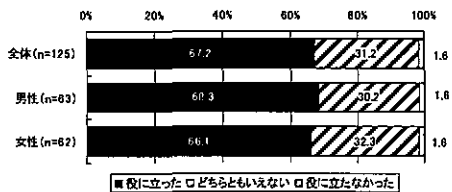
【インターネットで調べた】



【国による広報】



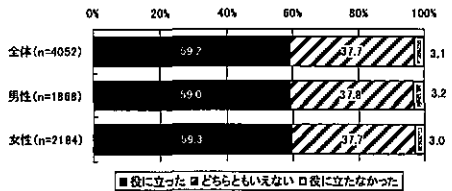
【地方自治体による広報】



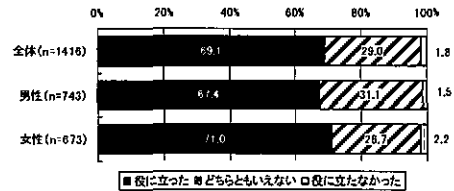
【健康保険組合による広報】



【テレビCM】



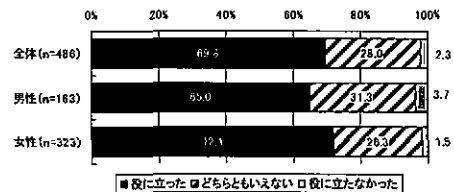
【新聞・雑誌の記事や広告】



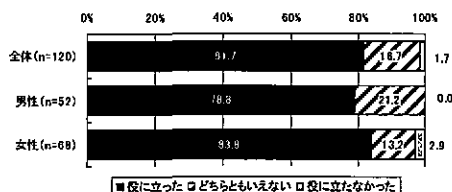
【病院・薬局のポスター】



【友人・知人・家族などのクチコミ】



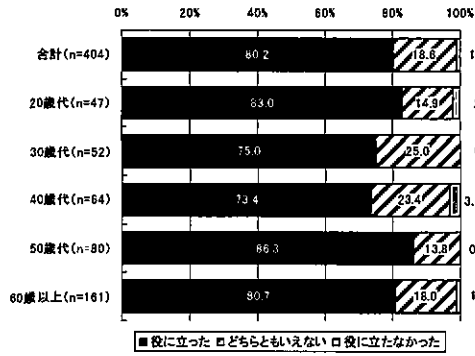
【その他】



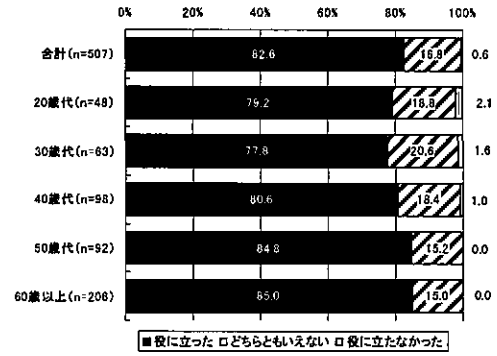
年齢別にみると「地方自治体による広報」は、30歳代以降年齢が上がるにつれ「役に立った」と回答している割合が高い結果となった。

図表 3-9 情報の有効度（年齢別）

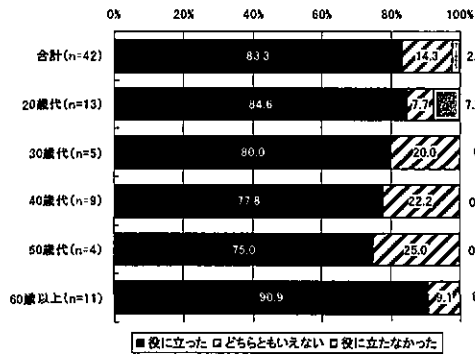
【医師による説明】



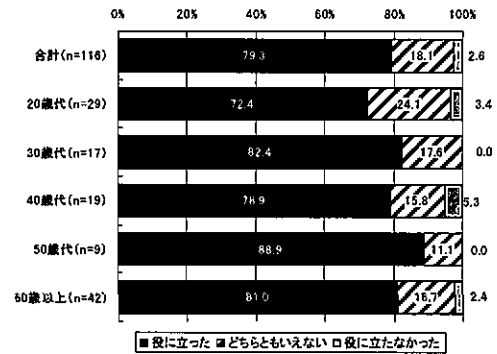
【薬剤師による説明】



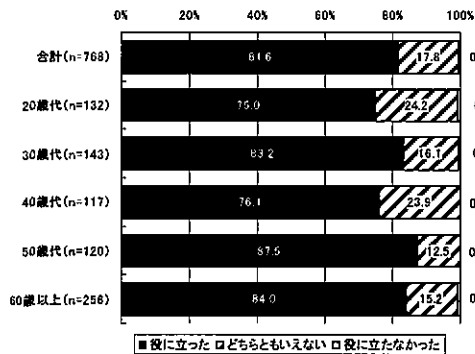
【専門学会等による説明】



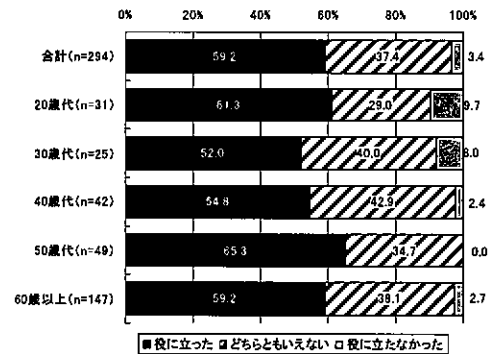
【本で調べた】



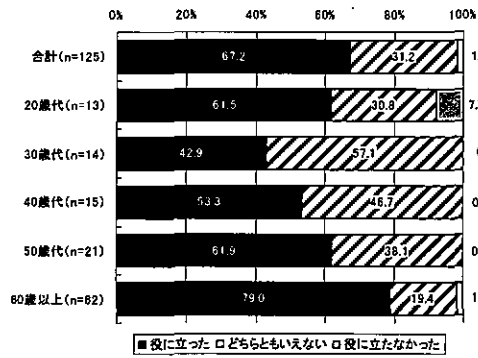
【インターネットで調べた】



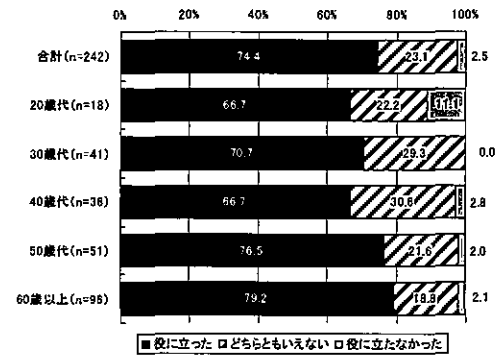
【国による広報】



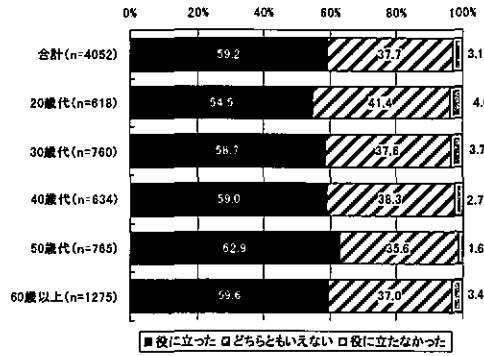
【地方自治体による広報】



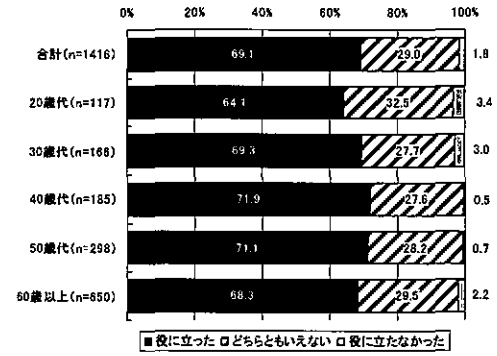
【健康保険組合による広報】



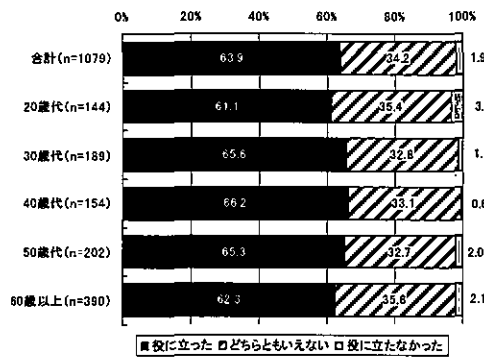
【テレビCM】



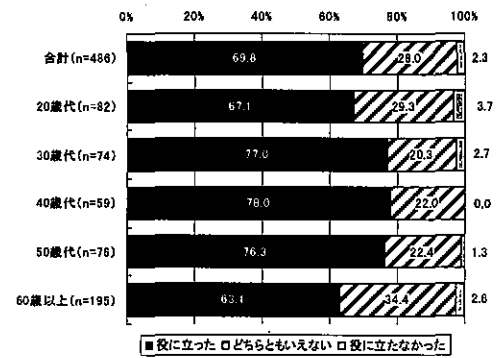
【新聞・雑誌の記事や広告】



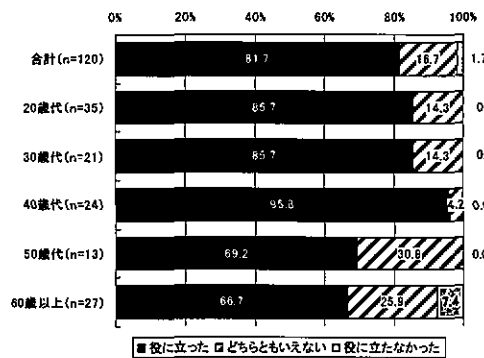
【病院・薬局のポスター】



【友人・知人・家族などのクチコミ】



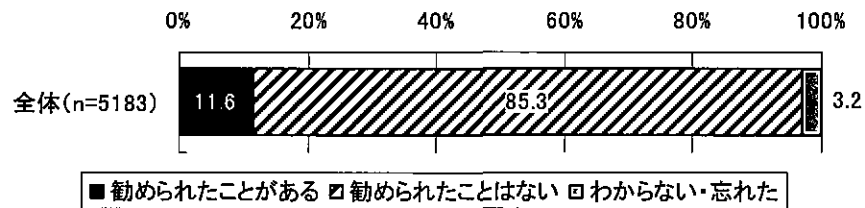
【その他】



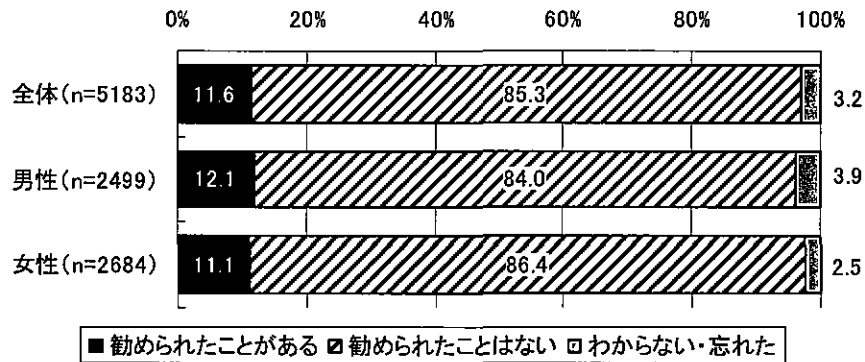
(4) 薬局の処方せん窓口でジェネリック医薬品を勧められた経験

薬局の処方せん窓口でジェネリック医薬品を勧められたかについて尋ねてみると、「勧められたことはない」が85.3%となった。「勧められたことがある」は1割程度にとどまった。

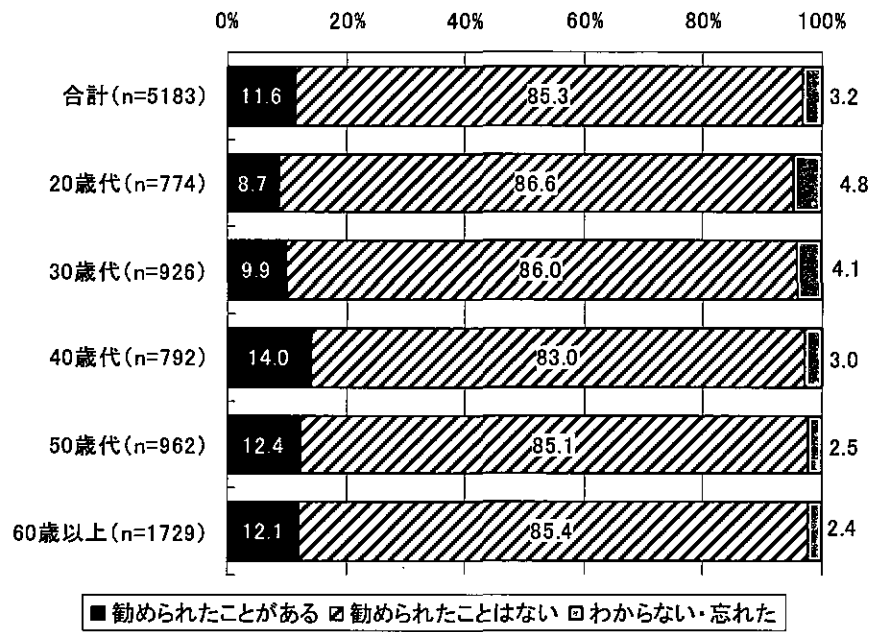
図表 3-10 薬局の処方せん窓口でジェネリック医薬品を勧められた経験



図表 3-11 薬局の処方せん窓口でジェネリック医薬品を勧められた経験 (性別)



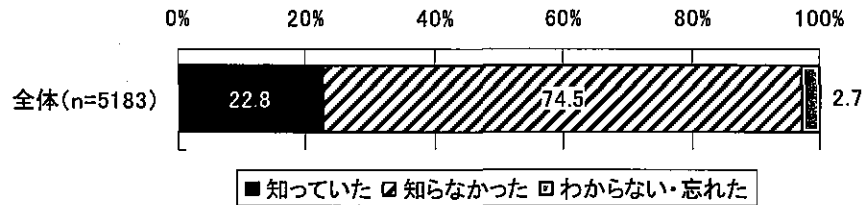
図表 3-12 薬局の処方せん窓口でジェネリック医薬品を勧められた経験（年齢別）



(5) 処方せんの「変更不可」欄の認知度

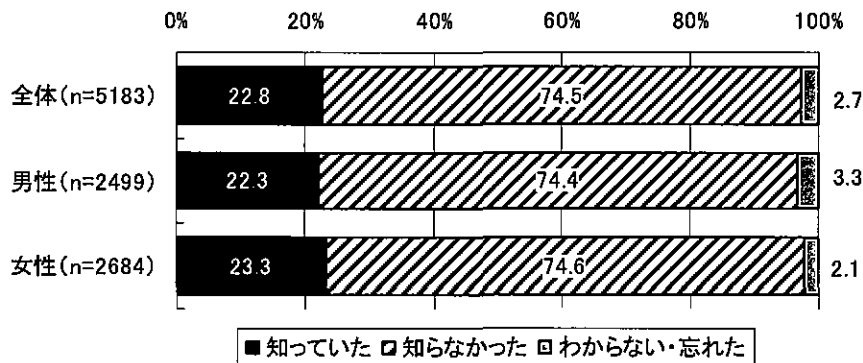
処方せんの「変更不可」欄の認知度についてみると、「知っていた」との回答が約 2 割あり、「知らなかった」が 74.5%となった。

図表 3-13 処方せんの「変更不可」欄の認知度

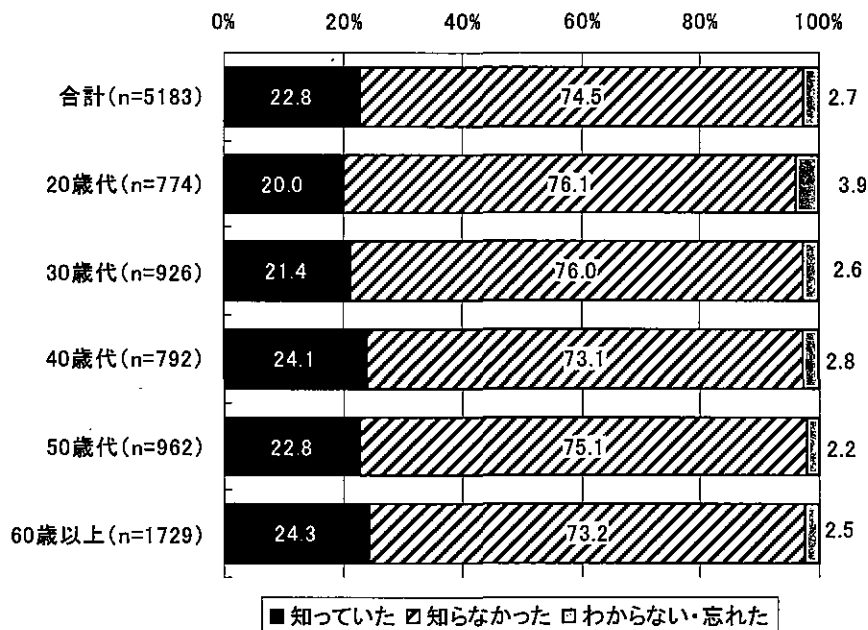


性別、年齢別でも大きな差はない結果となった。

図表 3-14 処方せんの「変更不可」欄の認知度 (性別)



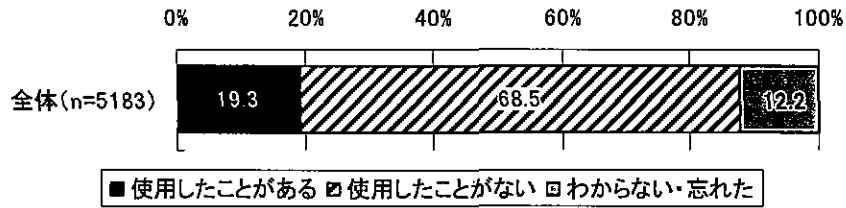
図表 3-15 処方せんの「変更不可」欄の認知度 (年齢別)



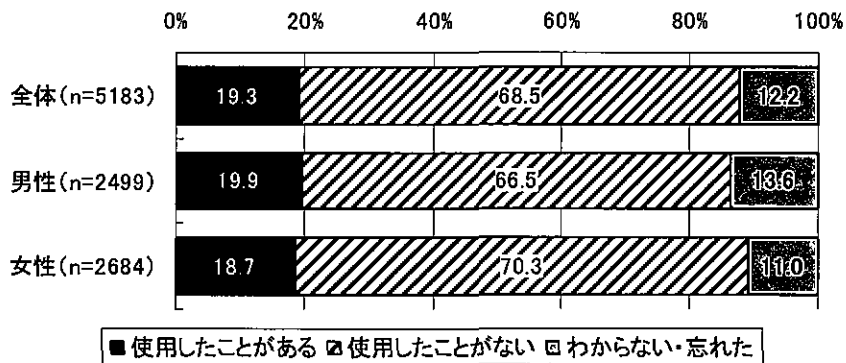
(6) ジェネリック医薬品の使用の有無

ジェネリック医薬品の使用の有無についてみると、「使用したことがある」が19.3%、「使用したことがない」が68.5%となった。

図表 3-16 ジェネリック医薬品の使用の有無

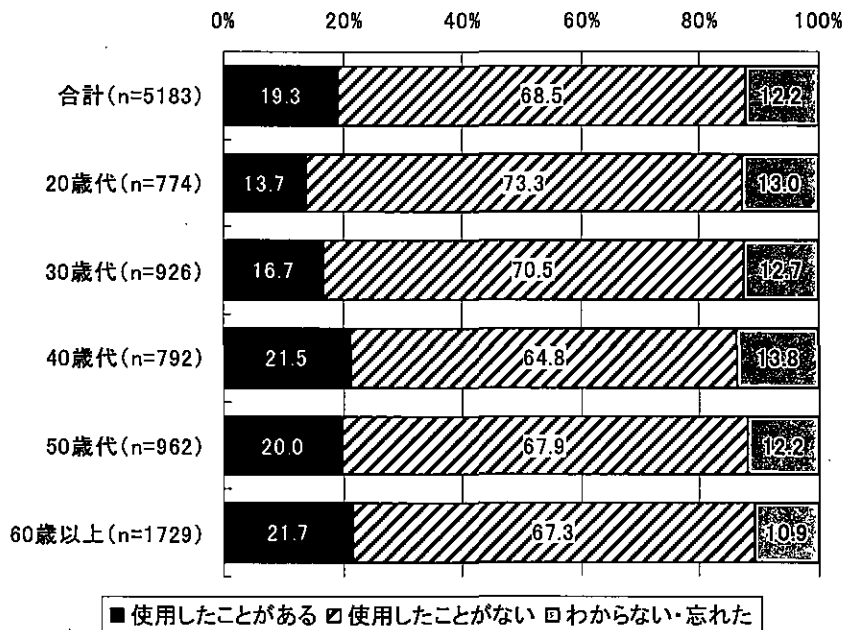


図表 3-17 ジェネリック医薬品の使用の有無（性別）



年齢別にみると年齢が上がるにつれ、ジェネリック医薬品を「使用したことがある」と回答している割合が高くなっている。

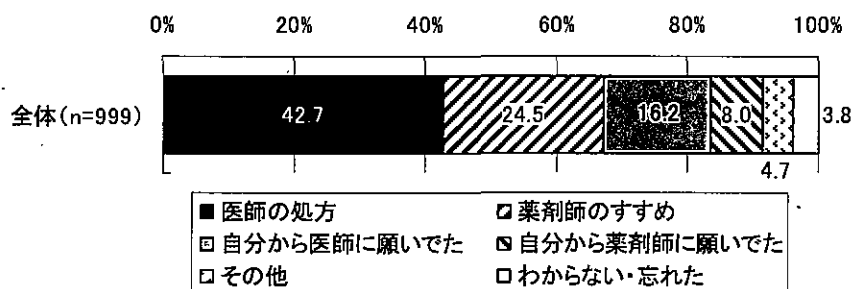
図表 3-18 ジェネリック医薬品の使用の有無（年齢別）



(7) 初めてジェネリック医薬品を使用したきっかけ

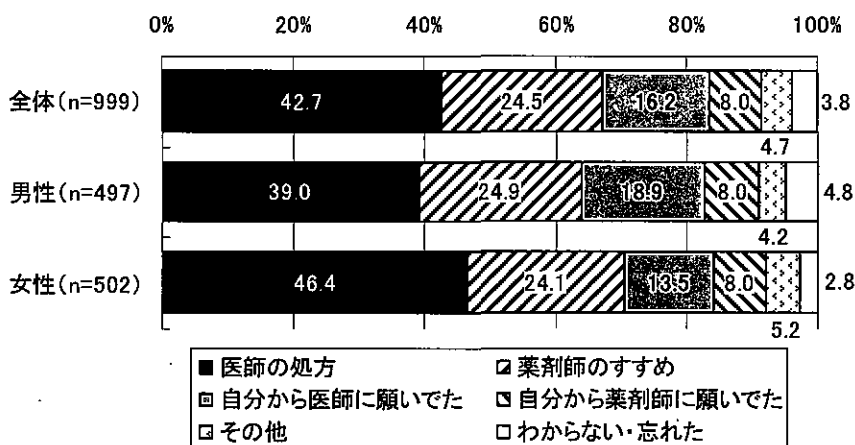
初めてジェネリック医薬品を使用したきっかけについてみると、「医師の処方」(42.7%)が最も多く、次いで「薬剤師のすすめ」(24.5%)、「自分から医師に願いでた」(16.2%)の順となった。

図表 3-19 初めてジェネリック医薬品を使用したきっかけ



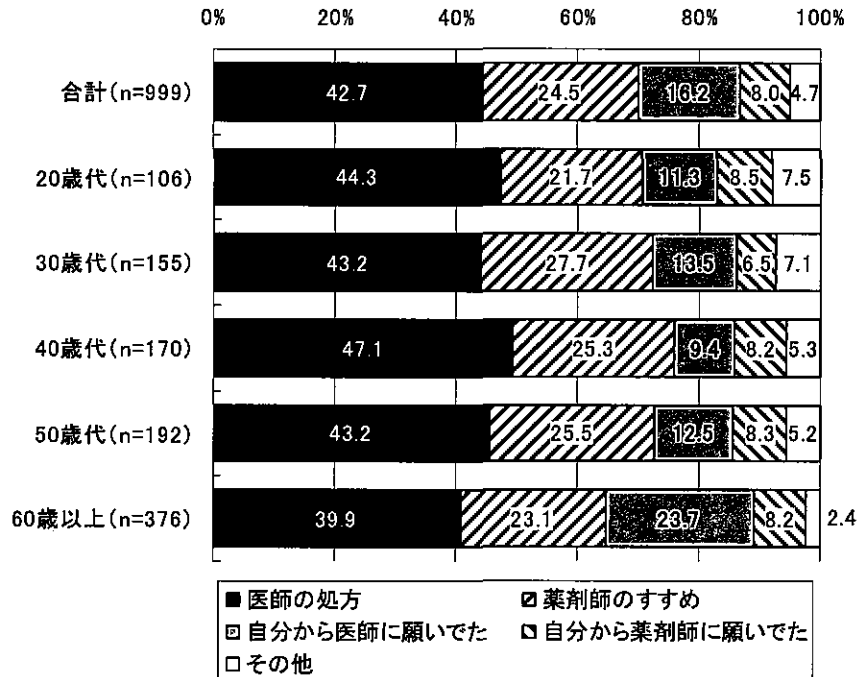
性別で見ると、男性は女性にくらべ「自分から医師に願いでた」割合が高く、女性は男性に比べ、「医師の処方」が高くなっている。

図表 3-20 初めてジェネリック医薬品を使用したきっかけ (性別)



年齢別にみると、60歳以上で「自分から医師に願いでた」が他の年代に比べ高くなっている。

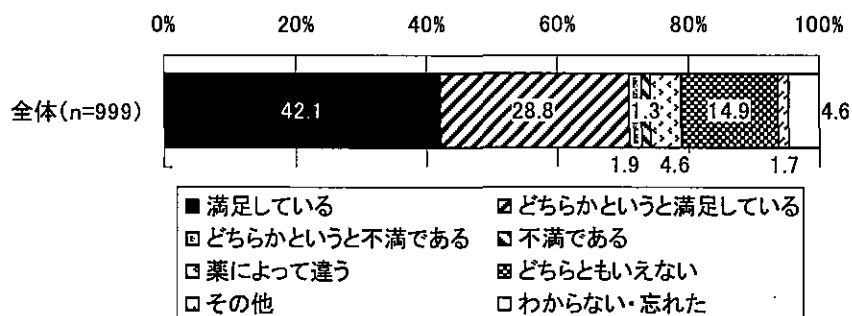
図表 3-2-1 初めてジェネリック医薬品を使用したきっかけ（年齢別）



(8) 先発医薬品と比較したジェネリック医薬品の効き目

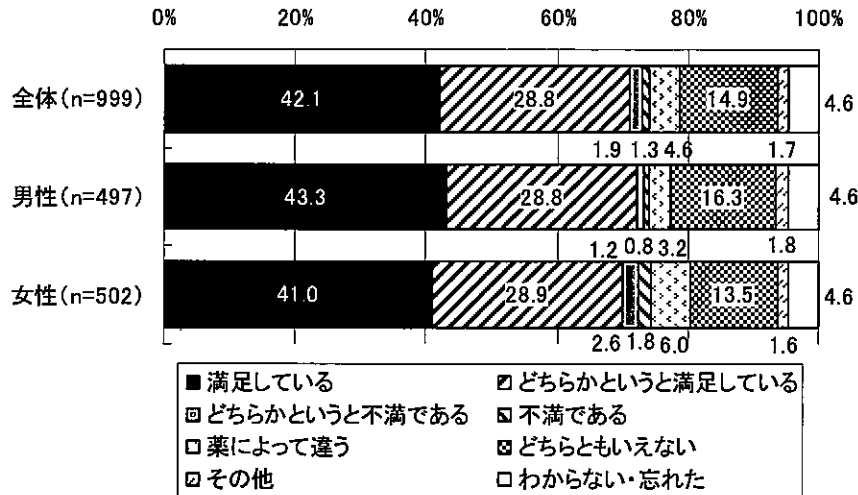
これまでに使用した先発医薬品と比較したジェネリック医薬品の効き目についてみると、「満足している」(42.1%)が最も多く、次いで、「どちらかという満足している」(28.8%)、「どちらともいえない」(14.9%)の順となった。「満足(満足している)と「どちらかという満足している」の合計」との回答が約7割を占める結果となった。

図表 3-2-2 先発医薬品と比較したジェネリック医薬品の効き目



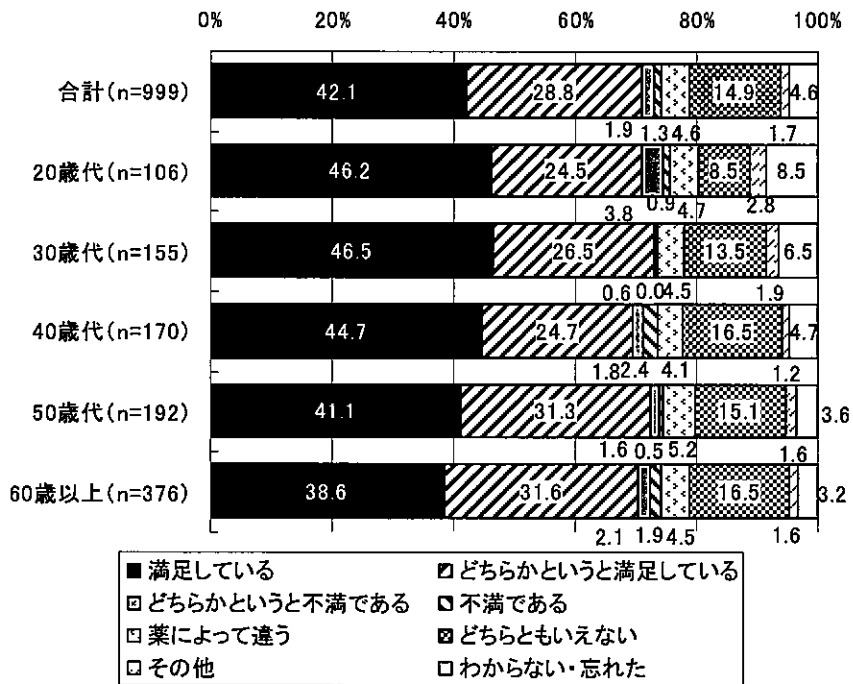
性別で見ると、男性に比べ女性の方が、「薬によって違う」、「不満である」と回答した割合が高くなっている。

図表 3-23 先発医薬品と比較したジェネリック医薬品の効き目（性別）



年齢別で見ると、年齢が上がるにつれ「不満である」と回答した割合が高くなっている。

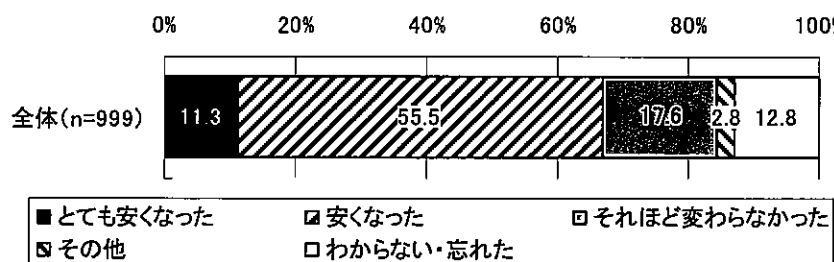
図表 3-24 先発医薬品と比較したジェネリック医薬品の効き目（年齢別）



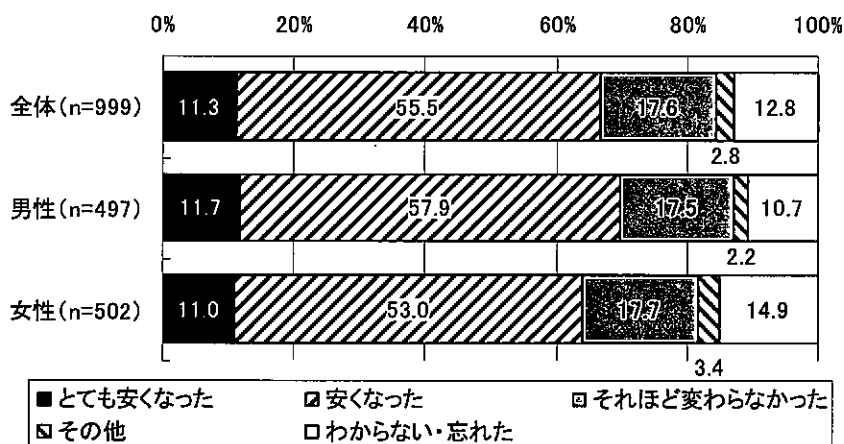
(9) 薬局や医療機関の窓口で支払ったお薬代について

薬局や医療機関の窓口で支払ったお薬代についてみると、「安くなった」(55.5%)が最も多く、次いで「それほど変わらなかった」(17.6%)の順となった。

図表 3-25 薬局や医療機関の窓口で支払ったお薬代について

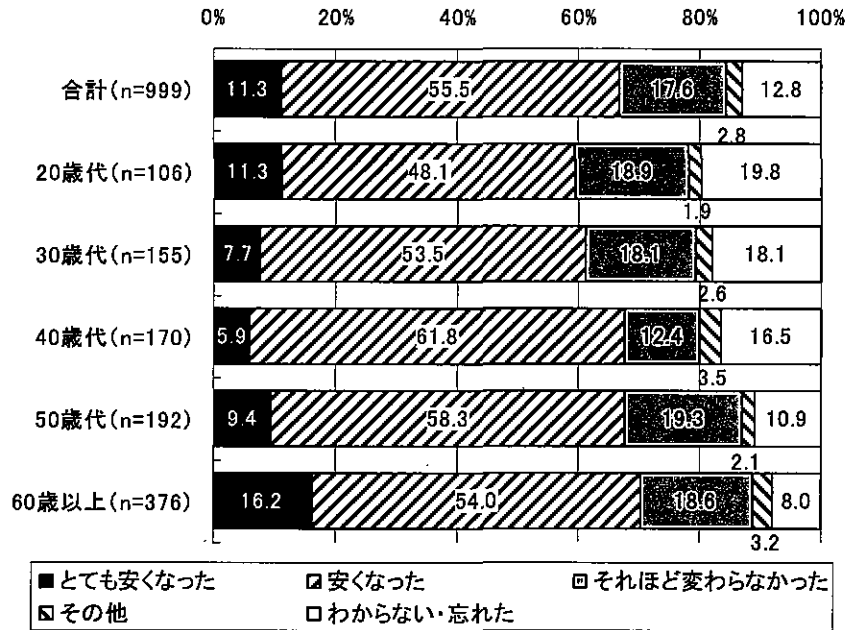


図表 3-26 薬局や医療機関の窓口で支払ったお薬代について (性別)



年齢別にみると、年齢が上がるにつれ安くなったと回答した割合が高くなっている。特に、60歳以上で「とても安くなった」の回答が多くなっている。

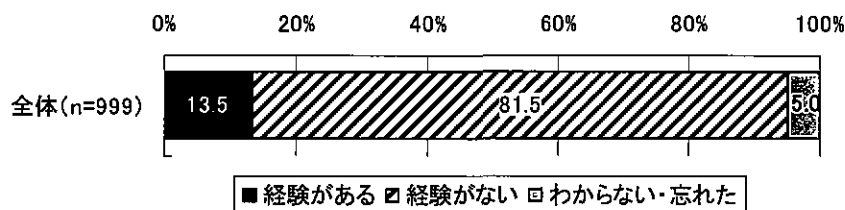
図表 3-27 薬局や医療機関の窓口で支払ったお薬代について（年齢別）



(10) ジェネリック医薬品を使用後先発医薬品に戻した経験の有無

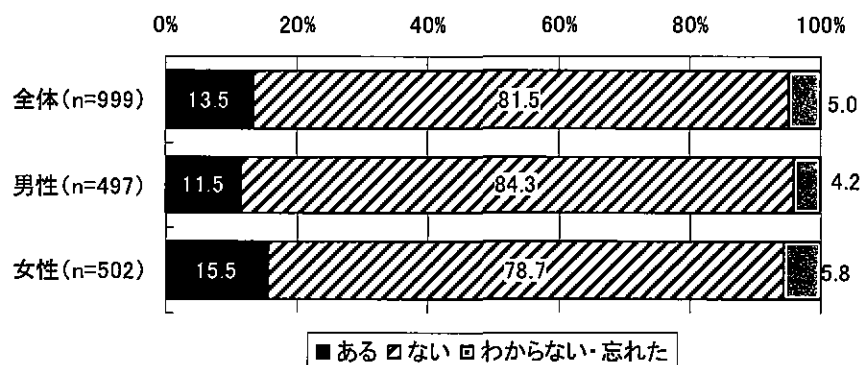
ジェネリック医薬品を使用後、先発医薬品に戻した経験の有無についてみると、「経験がない」の回答が約8割を占める結果となった。

図表 3-28 ジェネリック医薬品を使用後先発医薬品に戻した経験の有無



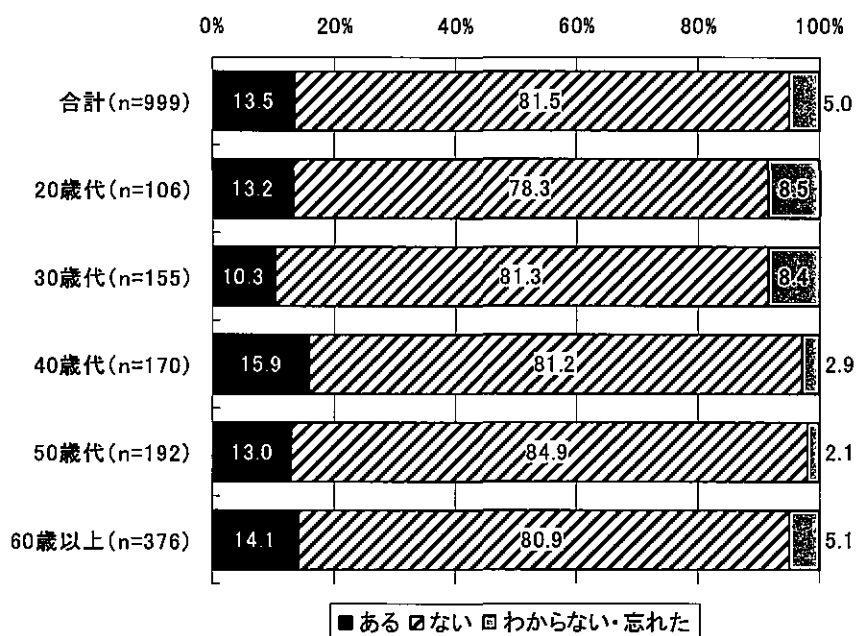
性別で見ると、女性は男性に比べ「経験がある」と回答した割合が高くなっている。

図表 3-29 ジェネリック医薬品を使用後先発医薬品に戻した経験の有無（性別）



年齢別にみると、年齢との関係は特段見られなかった。

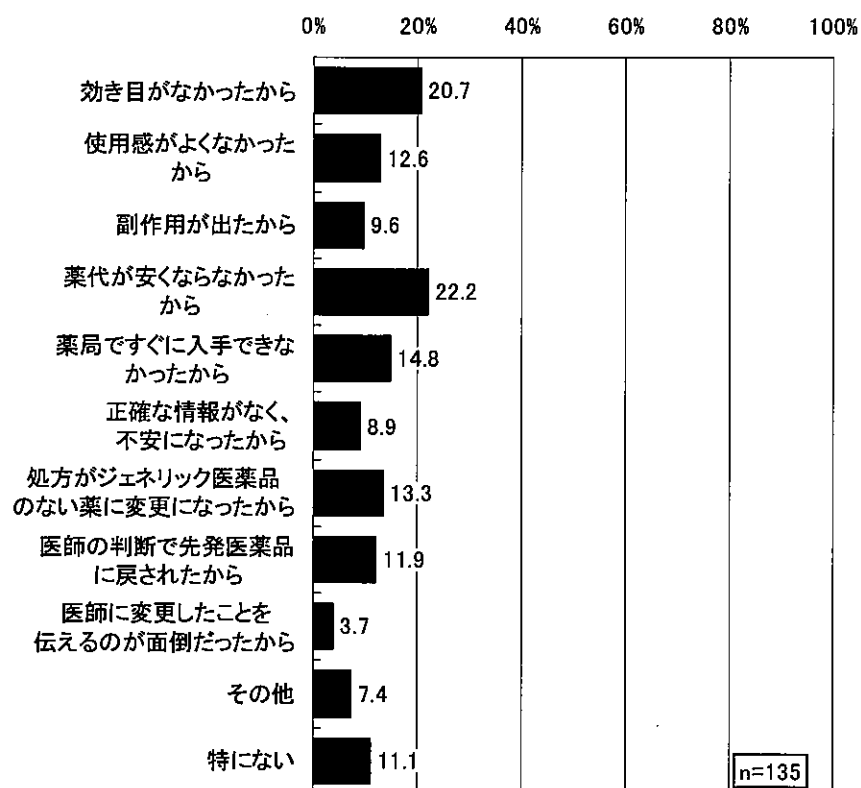
図表 3-30 ジェネリック医薬品を使用後先発医薬品に戻した経験の有無（年齢別）



(11) ジェネリック医薬品の使用をやめた理由

ジェネリック医薬品の使用后、先発医薬品に戻した経験がある人にその理由を尋ねたところ、「薬代が思ったよりも安くならなかったから」(22.2%)が最も多く、次いで、「効き目がなかったから」(20.7%)の順となった。

図表 3-31 ジェネリック医薬品の使用をやめた理由(複数回答)



性別で見ると、男性は「薬代が安くならなかったから」、女性は「副作用が出たから」「処方ジェネリック医薬品のない薬に変更になったから」が高くなっている。

図表 3-32 ジェネリック医薬品の使用をやめた理由（性別、複数回答）

